

津波で流出した福島の水上演習船が『ひとのつながり』という流れによって持ち主の元に還るまで

震災から3年以上が経過し、ときおり『津波で流出したものが発見され、持ち主に返された』というニュースも聞かれるようになってきました。

このニュースの裏側には、「発見する」「持ち主を特定し、連絡をとり、受け取りの意志を確認する」「輸送手段の段取りをする」「実際に運搬する」など、多くの人の→

2011年9月、愛媛県松山市で行われた「海ごみサミット愛媛会議」(愛媛大学・一般社団法人JEAN※共催)において、鹿児島大学のF先生が『震災起因漂流漂着物対策のため、全国の水産高校の実習船を用いて海上の漂流物の目視調査をする』ことを提案。同11月より、10隻の水産高実習船による観測が始まる。

※JEAN:散乱ごみの調査やクリーンアップを通じて海や川の環境保全を行っている非営利の環境NGO

【登場人物紹介】

鹿児島大学
水産学部
海ごみ研究室のF先生
(JEANのメンバー)

ハワイ在住
コーディネーターの
Cさん

水産高校
実習船の
K船長

水上バイクの持ち主
Mさん

日本小型船舶検査機構を通じて写真に写った船体登録番号から所有者が福島県大熊町のMさん(現在はいわき市に避難)であることがわかる。

2014年9月18日、Mさんと連絡がとれる。ご本人がバイクを引き取ることを決断したため、返還に向けての調整が始まった。

F先生はAIS(自動船舶識別装置)を用いた「ライブ船舶マップ」の情報をもとに、ホノルル港に入る実習船を探す。さまざまな偶然が重なって、返還先の福島の水産高実習船に積み込むことが決まる。

2014年11月10日、水上バイクを積んだ福島丸が小名浜港に到着。Mさんと3年8ヶ月ぶりの対面を果たす。

家族は無事でしたが、自宅と倉庫が全壊、倉庫に入れてあったこの水上バイクも流出しました。親戚の子どもたちを乗せた思い出深いバイク。皆さんの善意が詰まった、奇跡に近い贈り物でうれしい!
※11月10日はMさんの誕生日だったそうです。

今回の出来事を通じて、私は太平洋の海流の上にもう一つ、人のネットワークによる流れがあることを知りました。それぞれの点が一気に繋がった『これぞネットワーク活動の神髄』という出来事になったと思います。

ジョンストン環礁(ハワイ州)

→連携と、それぞれの尽力があります。今回は、海や川の美化に取り組む環境団体『JEAN』の活動から生まれたネットワークによって、ハワイで発見された震災起因漂流漂着物が日本に帰ってくるまでのさまざまな出来事を、順を追ってご紹介いたします。

2013年1月、JEANの「東日本大震災に伴う洋上漂流物に係る日米加NGO連携活動」に関する調査事業の一環で、ハワイのNGO、政府関係者、研究者とシンポジウムや現地調査を行う。このとき現地コーディネートを担当したのが国際海岸クリーンアップ(ICC)コーディネーターのCさんであった。

2014年5月21日、ハワイ・オアフ島の南西700マイル沖合にある無人島「ジョンストン環礁」の海岸に、一台の水上演習船が漂着しているのが見つかった。発見したのは米国魚類野生生物局の調査員。彼等は年に二度、鳥調査のためにこの島を訪れている。彼らはこの水上バイクが震災起因の漂流物ではないかと考え、調査船に載せてホノルルに持ち帰った。

2014年7月、Cさんが、ジョンストン環礁から持ち帰られた水上バイクのことを知り、所有者を捜すことはできないかとJEANに写真を送る。

2014年10月2日、Cさんより「水上バイクをMさんに返還するのに、目視調査に参加してくれている水産高実習船に協力を依頼してはどうか」というアイデアが出される。

2014年10月24日、福島県立いわき海星高校の実習船「福島丸」がホノルルに入港。Cさんの手配したトラックとクレーンで26日昼に積み込み完了、27日に福島県小名浜港に向けて出港。



運ぶのを引き受けてくれてありがとう!

トラックとクレーンを用意してくれてありがとう!



写真:左から、福島丸の乗原船長、松永さん、海星高校の薄尻校長

いわき海星高校のS校長「高校も津波で被災し、いろいろな人の助けで再開できたので、少しでも手助けできればと考えました」

we support ↓

RQ
災害教育
センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』しんぶん
「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

JANUARY
11
2015